

【国語】第5学年 単元名「グラフや表を用いて書こう」

令和3年11月25日（木） 第5校時 指導者 大湊和徳 場所 図書室

1 単元の目標

- 情報と情報との関連付けの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。  
( (2)イ)
- 引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。  
(思B(1)エ)
- 言葉がもつ良さを認識するとともに、進んで読書をし、国語の大切さを自覚して思いや考えを伝え合おうとする

2 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①情報と情報との関連づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使っている。( (2)イ)	①「書くこと」において、引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫している。(B(1)エ)	①積極的に自分の考えが伝わるよう図表やグラフを活用し、学習の見通しをもって、統計資料を用いた意見文を書こうとしている。

3 指導計画（全10時間）

学習過程	時間	・学習活動	・主な指導上の留意点 ●図書館を活用した支援	評価の方法 と評価基準
つかむ	1	・身の回りで起きている出来事やニュースについて話し合う中で、「くらしやすい社会とは何か」を考える。 ・児童から出された意見の中からテーマを3つ程度に絞り、学習課題を設定する。	・「日本社会」に焦点を絞り、世界的なテーマに興味を持った場合は、総合的な学習の時間で扱う「環境学習」等他教科における横断的な学習に生かしていく。 ●日直によるスピーチで昨今のニュースを題材にしたり、日本社会の現状に関する本を手にとれる場所に置いたりしておくなど、日本の社会について目を向けさせておく。	〈指導に生かす評価〉 主体態
	2	・前時で絞ったテーマに焦点を当て、これからの社会についてマインドマップにまとめ、自分の意見をもつ。	・意見をもとにグループで話し合うことで、自分の考えや立場を明確にできるようにする。	〈指導に生かす評価〉 主体態
	3	・教科書の文例「社会は、くらしやすい方向に向かっている」を読み、文章構成や資料の効果的な活用の仕方を学ぶ。	・文章構成や資料の活用の仕方を理解させることで、次時で資料探しやカードにまとめる際の視点をもてるようにする。	〈指導に生かす評価〉 思・判・表
追求す	4	・自分の意見を裏付ける資料（表・グラフ）を探し、タブレットのカメラで撮影した上でオクリンクのマイボード上のカードに貼り付ける。 ・事実、考え、出典などをカードにまとめていく。 ・難しい用語等の説明を、スクリーンショットを活用し貼り付ける。	●「何の資料か」「資料のどの部分が何を表しているか」「グラフから分かること（事実）」「グラフから考えられること（考え）」「出典」という視点を掲示し、本から資料を見つける際に視点を確認しながら取り組めるようにする。 ・意見と資料に整合性があるかを常に意識させるようにする。	〈指導に生かす評価〉 知・技
	5			

る	6 本 時	<ul style="list-style-type: none"> <li>モデル学習を通して、話し合いの視点や目的について話し合う。</li> <li>前時で作成したカードをオクリンク上で共有し、発表し合う。</li> <li>話し合いを通して、より明確な根拠となる資料を見つける。(決定する)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>資料に対するアドバイスをし合うことで、考えの違いに気付いたり、考えを深めたりできるようにする。</li> <li>●自分が見つけた資料が載った本の現物を紹介したり、グループで再度新たな資料を探したりすることで、自分の意見に対するより明確な根拠を見つけられるよう意識付ける。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○知・技① (見つけた資料・オクリンク)</li> <li>・自分が表現するために必要な情報を比較し、選択する。</li> </ul>
	7	<ul style="list-style-type: none"> <li>構成メモを作成し、意見文の下書きを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>教科書の文例とこれまでに作成してきたカードを対応させながら、構成を組み立てられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>指導に生かす評価) 思・判・表</li> </ul>
	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>下書きを推敲し、清書を完成させる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>これまで確認した書き方の視点を参照することで、文章を確認する観点を共有できるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○思・判・表現① (ワークシート)</li> <li>・引用した表やグラフと文章を対応させながら、根拠を明確にした意見文を書く。</li> </ul>
ま と め る	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見文を読み合い、交流する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>同じテーマの児童だけでなく、他のテーマの児童とも交流させることで、別のテーマに関しても視野を広げ、考え・感想がもてるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>〈指導に生かす評価) 主体態</li> </ul>
	10	<ul style="list-style-type: none"> <li>単元の学習を振り返る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>意見文の書き方、資料の活用方法、資料を活用するよさだけでなく、本を利用することのよさにも目を向けさせ、今後の学習でも目的に応じて本を活用していこうとする意欲を高められるようにする。</li> <li>●活用した本を紹介させ、自分が選んだテーマ以外の日本社会の現状や今後の展望にも目を向けられるようにする。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○主体態① (振り返りシート・発言)</li> <li>・自分の意見の根拠となる資料を本や話し合いの中で粘り強く探そうとした。</li> </ul>

#### 4 学校図書館補助員との連携及び使用図書等

- 学校図書館補助員との連携：表やグラフが載っている図書を学校図書館・市立図書館・県立図書館から借り、集めておく。
- 各児童のテーマを一覧表にして、共通理解を図っておく。
- 活用図書：「ジュニア学習年鑑2021」（朝日新聞出版）「子ども年間2021」（岩崎書店）「日本のすがた2021」（矢野恒太郎記念会）等

5 本時のねらい

資料から読み取った事実を発表し話し合うことを通して、資料を正しく読み取る力を高めるとともに、自分の意見に対するより明確な根拠となり得る資料を選び、論を深めることができる。

6 本時の展開（6/10）

学習活動（分） ○：留意点 点線枠：評価

前時までの本・オクリンクの活用方法

本に載っている、自分の考えを裏付けるグラフや表などの資料をオクリンク上のカードに挿入し、「何の資料か」「資料のどの部分が何を表しているか」「グラフから分かること（事実）」「グラフから考えられること（考え）」をテキストやペンで書き込んでおく。

1 前時までの学習を振り返り、本時のめあてを確認する。（10分）

- モデル学習として、オクリンク上で教師が作成した発表例を共有することで、本時の見通しをもたせる。
- 資料を正しく読み取れていない、意見に対する根拠となっていない例を用いて全体で話し合うことで、より明確な根拠となる資料を探す際の視点を持てるようにする。
- 下記の5つの視点や既習の文章構成を掲示しておくことで、最終的な学習の目的や活動の意図を意識して学習できるようにする。

～意見をより明確にする資料を探すための視点～

- 視点1 目的に合った資料を選び、かつ資料を正しく読み取れているか
- 視点2 資料が自分の意見や考察を裏付けるための十分な根拠となっているか（矛盾がないか）
- 視点3 引用元が明確になっているか
- 視点4 資料に対する意見の違い
- 視点5 どの資料がより根拠として明確か・より適した資料はないか

○本を探す際に、学校図書館補助員に声をかけてアドバイスをもらってもよいことを児童に伝える。

めあて めあて 資料から読み取ったことや今後の日本社会についての考察を発表し、より明確な根拠となる資料はないか、話し合おう。

2 オクリンクで画面を共有し、グループ内で発表し、話し合う。(25分)

活動の流れ

- ①「何の資料か」「資料のどの部分が何を表しているか」「グラフから分かること(事実)」「グラフから考えられること(考え)」「出典」について発表する。
  - 意味が難しい語句・聞き慣れない語句について、あらかじめ国語辞典やインターネットで調べさせておきオクリンク上に貼り付けておくなど、聞き手にとってより分かりやすい説明になるようにする。
- ②視点を基に、質問や感想を伝え合う。
  - 同テーマの児童同士でグループを形成することで、考え方の共通点や相違点に気づけるようにする。
  - 資料に対する助言・提案をし合うことで、より自分の考えに適した資料を選べるようにする。
  - 各テーブルに「意見をより明確にする資料を探すための視点」を用意し、見通しをもって学習に取り組めるようにする。
  - 発表の仕方・話し合いの仕方・発言内容・記述内容などについて参考になる児童やグループを意図的に取り上げ、適宜全体で共有していくことで、活動が滞っているグループの話し合いの活性化に繋げ、話し合いが深まるようにする。
- ③友だちに勧めたい資料の引用元となる本を実際に手に取り、簡単な本の内容などを踏まえて提案する。
- ④資料が根拠として十分でないと判断した場合は、グループで協力して新たな資料を探す。
- ⑤最も明確な根拠になると判断した資料をオクリンクで提出する。

評価項目：自分の考えを伝えるために、複数の情報を比較や序列化した上で友だちと検討し、必要な情報を選択することができる。 【知識・技能】(オクリンク・話し合いの様子)

3 本時のまとめ・振り返りをする。(10分)

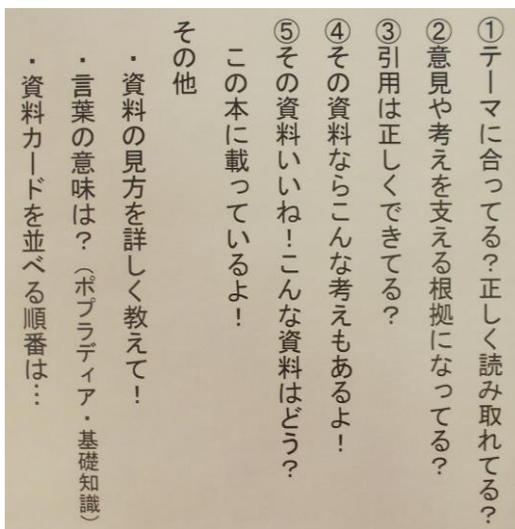
- ワークシートに記述させ、発表させることで、クラス全体で共有できるようにする。
- めあての再確認や話し合いの視点に関する発問、選んだ(決定した)資料をもとに、意見文を書く上で自分の資料に対する根拠や自信が深まったことに気づけるようにする。また、新たに考えたことや課題について顕在化できるようにする。
- 次時では、本時の学習を生かして構成メモや意見文を書くことを伝える。また、振り返りの記述に応じて、次時も資料を選ぶ(決定)する時間に変更する。

## 実践のまとめ

<写真①タブレットを用いて、各自まとめたことを発表したり、話し合ったりする場面>



<写真③児童に提示した「視点」>



<写真②話し合い後、新たな資料を探したり、提案し合ったりする場面>



<写真④単元のまとめとして児童が作成した意見文>



<児童の振り返り（本時）>

- ・資料を根拠としながら話し合ったり、友だちにアドバイスしたりすることができた。
- ・話し合いや、友だちの資料から違う考え方に気付くことができた。
- ・資料が考えの根拠となっているかどうかよく考えた。
- ・正しく読み取れているかよく確認した。出典を必ず記録した。
- ・より新しい資料を探したい。
- ・〇〇についてもっと詳しく調べてみたい。

<児童の振り返り（本や資料を活用する良さ）>

- ・資料を使うと自信がもてるし、説得力がある。
- ・本の情報はインターネットと比べて信用できる。
- ・本は索引を基に簡単に調べられる。
- ・統計がたくさん載っている本が役に立った。
- ・情報が多すぎず、子ども向けで分かりやすい。
- ・写真や図もあって読みやすい。

#### <校内研修との関わり>

図書館充実事業の研修を受け、図書を問題解決の手立てとして活用した授業作りを進めてきた。本単元では、図書を問題解決の手立て、ICT を表現ツールとして位置づけた。群馬県立図書館・桐生市立図書館から借用した図書や本校図書館の図書から、テーマに応じた自分の意見の根拠となる資料(グラフや表)を見つけ、タブレットのカメラ機能を使い撮影した画像に「読み取れる事実」等をまとめていった。本時では、まとめたものを同テーマの児童同士で共有し、視点を基に話し合い、自分の意見に対してより明確な根拠となり得る資料を見つける(決定する)という活動を実践した。その後、既習事項である「意見文の文章構成」や「資料と対応させた文章の書き方」を基に、各自意見文を完成させ、全体で交流した。

#### (成果)

- 群馬県立図書館・桐生市立図書館や本校図書館補助員との連携を図り、数多くの図書を集めたことで、十分に資料と向き合う時間を確保でき、様々な資料から取捨選択する機会を設けることができた。
- 多くの児童が資料を正しく読み取ったり、複数の事象を関連付けたり、テーマに関する基礎知識を身につけたりしながら、資料を根拠として話し合い、意見文を書くことができた。
- 資料を正しく読み取り、テーマに関する理解を深め、分かりやすくまとめたことで、グループ活動が活発になった。また、グループ活動を通して新たな考えに気付いたり、資料を提案し合ったりする姿が見られた。
- 単元を通して「視点」を意識させることで、資料を選ぶ際にテーマや意見に合った資料探しを行うことができた。
- タブレットを活用して表現し合うことで、これまで発言機会の少なかった児童も進んで交流することができた。また、視覚的にも互いの考えを共有することが容易となり、自分の考えを表現する上で、タブレット活用が有効手段となっていた。
- 本時や単元を振り返る際、図書や資料を活用することの良さについて記述する児童が多数見られた。

#### (課題)

- テーマや資料に対する知識・理解が浅く、意見を述べる上で資料が十分な根拠となっていない児童がいた。
- テーマによっては、図書に載っている資料の情報が古く、近年の傾向を踏まえた意見を述べるできない児童がいた。また、図書を通して入手困難な情報はインターネットで補うなど、双方のメリットを生かした活用方法を見直す必要がある。
- 県立図書館や市立図書館を活用する際、貸し出し返却が迅速に行えるように、校内における組織を十分に整え、計画的に借用できるようにしたい。